



図書館だより

9月号

大島中学校

3年生は部活動も引退し、家で過ごす時間が長くなりましたね。受験に向けて勉強に身を入れる毎日の中で、時には一息入れる時間も必要です。そんな時は、時代を超えて世界中の子どもたちに読み継がれている古典童話を手に取ってみてはいかがでしょうか。力を合わせて困難な状況に立ち向かったり、ままならない日常の中に喜びを見出したり、様々な境遇の中で生きる登場人物たちと心を通わせながら、物語の世界に浸ってみませんか。もちろん、1・2年生の皆さんもぜひひどうぞ！

◇代表的な古典童話◇

アルプスの少女ハイジ（角川文庫）ヨハンナ・シュピリ著
若草物語（福音館文庫）L.M.オールコット著
宝島口（岩波少年文庫）バート・ルイス・スティーヴンソン著
小公女（新潮文庫）フランシス・ホジソン・バーネット著
海底二万海里（福音館）ジュール・ヴェルヌ著

ちょっと一息

【笑える話・面白い話】人間は顔じゃない

父は、男にふられて落ち込んでいた娘をなぐさめようとして、

【笑える話・面白い話】欲しい物 食べたい物

うちの爺ちゃんがね、私の誕生日に、
「これで何でも好きなものを食べなさい」って、割り箸くれた
の

さとしです。

店員に下の名前聞かれたんで、
「耳ヘンに、ハムに、心と書く聴です」と説明したんだ。
...
恥

日本語には微妙な表現が多く、使い方が難しいと感じることはありますか。美しい日本語を正しく使うために気をつけたい言葉を紹介しましょう。

「煮詰まる(につまる)」

「煮詰まってしまい、アイディアが浮かばない」など、精神的に追い込まれた状況で使われがちですが、本来は「議論や意見が出尽くして結論の出る状態になる」ことをいいます。結論が出る寸前に用いるのが正解です。

「失笑(しっしょう)」

相手を馬鹿にして「あきれた」というニュアンスで「失笑する」を使う人がいます。しかし本来は「的外れな発言に失笑を買っていた」というように、「思わず笑いだす」「おかしさのあまり噴き出す」という意味です。

「姑息(こそく)」

「あの人は姑息だ」など、「卑怯だ」という意味で用いられることが多く、間違えやすい言葉です。本来は「その場しのぎの対応をすること」をいいます。「姑息な手段」などであれば、使い方に間違いはありません。

「おざなり」と「なおざり」

「おざなり」とは、いい加減に物事をすませること、その場だけの間に合わせを表します。「なおざり」は、いい加減にしてそのままの状態で放っておくことを言います。両者の意味を比べてみると、「いい加減である」ことは共通点ですが、行動する、しないのかで大きく異なってきますので使い分けるようにしましょう。

ほかにもたくさんあるので調べてみると楽しいかもしれませんね。

Recommended Book

おすすめは… B913.6-ミ『Nのために』 湯かなえ 著 双葉社
超高層マンション「スカイローズガーデン」の一室で、そこに住む野口夫妻の変死体が発見された。なぜ夫 妻は死んだのか、それぞれが想いを寄せるNとは誰なのか…という内容の純愛ミステリーになっています。本を読むのが苦手な人でも読みやすいので、ぜひ読んでみて下さい！